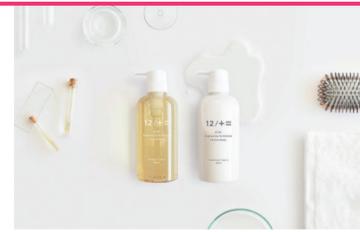




スマファク! ではそれぞれの作業にどれだけ時間がかかっているかを把握・集計・分析し、生産性向上や人材育成にもつなげることができる
 ●株式会社サンコー技研



天然素材の優しさと石けん職人のこだわりが詰まった、くらしに寄り添うハウスケア&ボディケアブランド「SOMALI(そまり)」
 ●木村石鹸工業株式会社



一切の妥協なく、本当に良いものを。その一心から、シャンプー開発のセオリーやマーケティング的側面などを無視してつくり上げた渾身の商品「12/JU-NI」
 ●木村石鹸工業株式会社



木村石鹸ではTwitterをはじめ、Instagram、LINE、FacebookなどSNSを活用。それぞれのメディアの特性やターゲットに合わせて使い分けている
 ●木村石鹸工業株式会社

コロナ禍で問われるDXの進め方。 ここから新しいものづくりの姿が生まれる。

木村 2020年からのコロナ禍で、みなさん工場はどうされていますか?

中辻 売り上げ的には影響を受けましたが、逆に新規事業や新商品開発を進めることができました。この時期に投資して、自社ブランドの工具のECサイトでの販売をはじめ、社内的にも新規設備の導入もしています。

木村 コロナの影響は良いほうに出る業界なので、OEMも大きく伸びました。ここ数年めざしてきた自律型組織の強みも発揮されたと実感しています。2020年4月に新卒を4名採用し、うち2名が営業だったのですが入社後すぐリモートに切り替わって。うちは教育制度がなく、OJT研修でおこなってきたのですが、過去3年新卒採用していた先輩たちが新卒を教育するプログラムを自主的につくってくれて、リモートで指導してくれたんです。

中辻 それは素晴らしいですね。

木村 会社の状況も良いほうに出ただけでなく、原料のETAノールや容器が入手困難になり、注文はあるのにつけれない状況になって。そこで「既存のものでつけれないなら別のものをつくろう」と社員が自分たちで動いて、協力会社に手配しスピーディーに判断してくれたから乗り切れた。これも指示・命令を待って確認を取るというやりかたでは、できなかったと思うんです。

田中 うちの場合はコロナの影響はありましたが、現場を止めるほどではなく。とはいえ新規案件がまったく動かなくなったので、その余った時間をアプリ開発に注ぎ込んだ感じですね。やっと完成して、2020年の4月から販売をはじめたところに…

木村 緊急事態宣言がきた!

田中 まさに(笑)。それで諦めていたんですが、今年に入って社

外的な動きができないかわりに、現場の見直しに着手しようという動きが出てきて、少しずつ売れています。私たちはプレス加工業が本業ですが、今後はこのアプリを新しい事業の柱として発展させたい。製造業の現場はほとんどDX化されておらず、まさにこれから。このアプリが製造業にとって新しい力になれるように開発に携われれば、できればASEANに販売したいんですよ。こういうことはプレスだけやっていたら、発想すらしなかったのが面白いですね。何かしら事業化させた経験というのは大きくて。何ごとにもチャンスとして捉えられるようになりました。

木村 うちでは将来の目標を明確に決めてはいないんですけど、イノベティブな会社であり続けたい。でもイノベーションって、そういう部隊や開発室をつくったからといって生まれるものじゃない。トライ&エラーを繰り返せるような環境や、心理的安全性があってはじめて起きるかもしれないもの。計画はできなくてもそれが生まれやすい環境はつくれる。たとえばこれは若干DXが絡むところだと思うんですが、社内の伝達ツールはメールや電話、対面がありますが、うちはチャットを入れた。チャットはフラットなんです。敬称も不要だし、部門の垣根を超えやすかった。これもイノベーションを起こす土壌づくりで重要なことかなと思います。

中辻 今は3DCAD/CAMを使って設計加工という流れですが、私たちがめざすのは、すべての工程の完全なる自動化と、データ化されたものをどう使うか。そのための技術のデータ化を日々進めていて、3~5年以内には製造プロセスの完全なる自動化を実現したい。めざすのは新卒社員がボタンひとつで一級品の金型設計をつくる姿。実現すればものづくりの技術がインフラ化されて、そこから先は人がクリエイティブな発想で価値を創出するのが、本来のものづくりになっていく。泥臭い、汚い仕事を脱却して、クリエイティブでカッコいい仕事がものづくりと言われる業界へと変えていきたいですね。

モビトーク | 編集後記

話題のDX。難しいお話なのでは…? と構えていたのですが「何を楽にするか」を突き詰めていった結果、行きつく形がDXの理想形である」というシンプルな説明が印象深かったです。3社とも独創的かつチャレンジ精神に溢れる取り組みをされていて、中小ものづくり企業が今後もっと発展していく予感がありました。

DX

DX(デジタルトランスフォーメーション)

すべての業務プロセスをデジタル化し、業務改革、企業変革を進めやすい環境を整え、より競争性の高い企業、より良い企業への変革を絶えず続けていくこと。
 ※DXというソフトウェアやデバイスは、ありません。
 また、デラックスなIT活用でもありません。

TODAY'S MEMBERS



量産実績・製法技術・提案力をあわせ持つ「打抜くト」のトータルサービス。

プリント基板や光学フィルムなどの電子部品の精密打抜き加工で培ったプレス加工技術をもとに、電池部品やインフラ交通系ICカードなど厳しい品質を要求される打抜き加工、また完成品の全数検査を可能とする検査体制を兼ね備えたプレス加工事業を得意とする。非接触型ICカードに使用される回路基板の加工受託においては、累積1億5000万枚以上という量産実績を持つ。超精密位置決めプレス工法を開発し、どんな金型でも環境に影響されずシンプルに±5μmの位置決め精度で加工が可能。

株式会社サンコー技研

東大阪市玉串町東3丁目5-38
 TEL 072-964-3204
<http://sankogiken.com/>



釜焚き製法で石鹸成分を一から製造 誠実なものづくりで多くのファンを獲得。

大正13年創業の老舗石鹸メーカーであり、職人が手作業で「釜焚き製法」によって石鹸を製造。高い品質基準、安全基準が要求される生協・コープ向けの洗剤・化粧品といったOEMを中心に自社で企画開発から製造までを担い、2015年には自社のハウスケアブランド「SOMALI」を立ち上げ事業を拡大。同時に自律型組織をめざし、社員に権限を持たせ自ら考える組織に改革するなど、社内に新風を吹き込んでいる。2020年、三重県伊賀市に体験型の自社工場「IGA STUDIO PROJECT」を設立。

木村石鹸工業株式会社

八尾市北亀井町2-1-30
 TEL 072-994-7333
<https://www.kimurasoap.co.jp/>



あらゆる金属加工において「製作速度世界一の企業」をめざす。

プレス金型の設計製造からはじまり、現在は金型・加工・3Dプリンタ・加工技術支援の4つの事業を展開。金型に関しては板厚0.1~12mmまでの製作が可能だ。試作・量産・開発を一貫しておこない、最適工法を提案。図面1枚から完成品を届けられる技術力や製作スピードにも定評があり、納期、品質はもちろん、顧客のニーズに合った金型づくりに取り組んでいる。「金属プレスのトータルサポーター」として、既存技術からワンランクアップさせた提案で製造業の価値の底上げにも貢献する。

中辻金型工業株式会社

東大阪市長田西4-1-16
 TEL 06-6746-0056
<https://www.nkk-24.co.jp/>